

<研究主題> 一人一人が学んだことを実感し、自分から行動する姿を目指して
～各教科等の指導を支える自立活動の視点から～

今年度の研究もまとめの時期になりました。第6号から第8号は、全校授業研究会について今一度振り返ります。公開研、全校研での成果と課題を今後の研究に活かしていきたいと思えます。

協議テーマ

- ・ 目指す姿が授業の中でどのように表れていたか
【一人一人が学んだことを実感し、うれしさややりがいを感じて自分から取り組む姿】
- ・ そのための手立て（学習活動、教材・教具、場の設定、教師の働き掛け）は適切か

★単元名★

小学部4年 生活単元学習 「きらきらホールにだいへんしん！～おはなしランドへようこそ」

★公開研を受けて改善した点

- ・ 目標を明確にし、子どもたちに分かるように示す。
- ・ 活動で作ったものを、その時間に生かす。
- ・ 役割を与えるなどして活動に変化をつける。

★協議から★

- ・ 自分で考えて動く場面をもっと増やす。
→少し難しい課題や、うまくいかなかった場合にどうするか考える場面を設ける。
- ・ 授業のゴールを明確にする。
→めあてが達成できたか、目の前にある物を用いて振り返るとよい。



装飾したピンを使って遊ぶ場面



ピンの並べ方を試行する場面

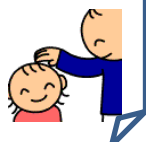


<指導助言> 秋田県総合教育センター 指導主事 牧野 幸枝 氏

- ・ 対象児童について、子ども理解シートに記載していることは自閉症の特性からくるものが多い。「〇〇さんが話し終わるまで聞く」などの具体的な手立てを、どの場面においても教師が意識して接していくことが大切。
- ・ 児童の良かった場面を全体の前で称賛することで、周囲がその児童に注目する。子どもの良い姿を全体に返すと良い。
- ・ 「めあて→活動→まとめ」に整合性をもつようにしてほしい。お互いの頑張りを全体の場で紹介、評価してから遊ぶなど、授業の組み立てをまとめから考えてみるとよい。

今後の授業づくりに向けて

- ・ 子どもたちに分かりやすい目標と評価の示し方
- ・ 子どもの良い姿→全体の場で称賛



1・2年生を招待した場面